

(別紙)

第2次審査応募様式

No.2 (1次No.9) (事務局用)

教育改善提案計画調書

所属学科名 (または所属課又は団体名) 大学事務局 庶務課

応募者氏名(代表者氏名) 大 畑 太

(注) 枠は適宜移動して下さい。ただし全体でA4で2枚までとします。

記述は12ポイントをお願いします。

1. 提案名	学生の主体的活動を応援する「グループチャレンジ」
2. 目的と効果など	【提案内容の概要】 共感・共鳴・感動を巻き起こすためには、大学から学生に提供するばかりでなく、学生自身が主体性を持ち自主的に取り組む姿勢も重要であると考えます。本提案では、主体的・自主的活動を行ってみたいという学生や今一歩踏み出せないでいる学生、クラブ活動に参加していない学生に「グループチャレンジ」への応募や参加を呼びかけ、教職員及び大学が企画を実行する学生の後押しをすることで、主体性・自主性・協調性を養う機会を創出する。 【具体的な内容】 自主的活動を希望する学生が活動概要を作成(必要に応じて教職員がアドバイス)し全学生で共有する。活動概要により興味・関心を持った学生が自由に参加でき、限られた期間の中で、グループと各々が設定した目標の達成をめざす。 なお、主体性や協調性が十分養われると思われる取り組みには大学より活動資金の一部援助も行う。 【期待できる効果】 同じ目標や興味・関心を持つ学生同士が、グループ作りから取り組み内容の決定・実践・結果の取りまとめまで一連の流れを主体的に経験することで、学生の自主性が養われ積極的に物事に取り組める学生の増加が期待できる。 ー特筆すべき点ー 何らかの課題に直面した際、「よし、やってみよう」と感じるのか、「その課題は自分にはできないかもしれない」と尻込みするのかは、『自己効力感(自信)』の高さが影響している。

	本提案は、「自分たちの力で一つの事業をやり遂げる」ことを目標としており、企画の発案から一連の流れを経験する中で、主体性・自主性・協調性を養うとともに、一人ひとりが本来持っている能力や価値を最大限に引き出すことを目的としている。このように、日常では得難い経験や、成功（失敗）体験を積むことこそが自己効力感の向上に繋がるのではないかと考えている。 【効果】 グループチャレンジを経験した学生は、その後の各活動場面でリーダーや企画推進役となり周囲に影響を与える存在に成り得ることが期待される。また、この活動の実績が学内に広まることにより、「チャレンジすることはカッコ良い」といった雰囲気作りや、「自分たちもやってみたい」と感じさせる機会となることも期待できる。 なお、グループチャレンジは社会に出る前に身に付けておくべき能力も同時に養う取り組みでもあり、就職活動や入職後の活動においても生かせるものと考えている。
--	--